

## 施策の展開 III 「高い意欲と能力のある人材育成と経営体のレベルアップ」

～「健全かつ活力ある水産業の構築」(条例第8条第1項第3号関係)～

### 【取組状況・成果】

#### 1 効率的で安定的な経営体の育成

経営管理能力の向上による効率的で安定的な漁業経営体の育成を目指して、地域の中核的漁業者や意欲のある漁業者等を対象として、簿記記帳研修や経営診断等経営意識の向上と経営の安定化を図るための指導・助言を行いました。

また、漁業経営の近代化等を図るために必要な資金の融資及び利子補給を行うとともに、漁業共済制度への加入を促進し、漁業経営の維持安定を図りました。

### 【平成19年度の主な実績・成果】

#### (1) 中核的漁業者の育成及び協業化又は法人化の取組支援

中核的漁業者及び制度資金活用者を対象に経営改善に向けた指導・助言を実施しました。

また、経営改善計画認定者に対し、計画の適正な遂行のための支援を行いました。

[農林水産経営支援課及び仙台・石巻・気仙沼地方振興事務所]

※平成19年度実績

- |                   |      |
|-------------------|------|
| a. 中核的漁業者支援       | 2経営体 |
| b. 制度資金活用者支援      | 4経営体 |
| c. 漁業経営改善計画既認定者支援 | 5経営体 |

#### (2) 漁家経営における経営管理能力の強化

イ 中小漁業者の経営管理能力向上と財務体質の改善を図るため、経営研修会を企画実施しました。

[農林水産経営支援課及び石巻地方振興事務所]

※平成19年度実績

- |         |     |
|---------|-----|
| a. 集団指導 | 1集団 |
|---------|-----|

ロ 円滑な経営指導と県内の経営指導体制の充実を図るため、漁協営漁指導職員及び水産業普及指導員を対象に経営指導技術向上のための研修会を行いました。

[農林水産経営支援課及び仙台・石巻・気仙沼地方振興事務所]

※平成19年度実績

- |              |                   |
|--------------|-------------------|
| a. 経営指導基礎研修会 | 3回                |
| b. 財務・税務基礎研修 | 1回(※水産業普及指導員4名参加) |

ハ 漁船漁業の構造改革計画の策定に関して、協議を行う地域プロジェクト協議会の設置や構造改革計画の策定に対し支援を行ったところ、気仙沼地域、石巻地域の2カ所にプロジェクト協議会が設置され、うち石巻プロジェクト改革計画（まき網漁業）が国の認定を受けました。

[水産業振興課・気仙沼・石巻地方振興事務所]

### (3) 漁業経営安定のための漁業共済制度の活用推進

漁業者に対する漁業共済制度の理解の推進及び共済への加入促進を図るため、宮城県漁業共済組合が実施する加入促進活動に指導・助言を行うとともに、同組合と水産業普及指導員が連携して、地区説明会や各種研修会の機会をとらえての説明等啓発普及に努めました。

[農林水産経営支援課及び仙台・石巻・気仙沼地方振興事務所]

### (4) 経営コストの削減及び各種制度資金の効率的な活用

漁業経営の近代化、資本装備の高度化の推進、経営不振者の再建等を図るため、制度資金の融通、利子補給及び預託による協調融資を行いました。

[農林水産経営支援課]

※平成19年度実績

a. 利子補給等	65,686千円
b. 預託	1,700,000千円
c. 貸付	178,300千円

### 【主な事業】

課名	事業費(千円) [決算額]	事業名
農林水産経営支援課	1,962,875 [1,791,961]	浜のマネージメント・リーダー育成支援事業 水産金融対策事業
水産業振興課	4,866 [153]	漁船漁業構造改革促進支援事業

## 2 人材の育成と確保

将来にわたり水産業を担う人材の育成と確保を図るため、就学者を対象とした漁業体験学習や青年・女性漁業者等を対象とした学習会等を実施したほか、担い手団体が実施した研修事業、研究活動及び魚食普及等の活動に対して助成・指導を行い、地域漁業及び次代を担う意欲と能力にあふれる担い手の確保・育成に取り組みました。

### 【平成19年度の主な実績・成果】

#### (1) 漁業士、青年・女性漁業者等の人材育成

イ 漁業士として地域振興に係る実践力向上を図るため、茨城県大洗町及び鹿島市において、茨城県漁業士会との情報交換、地域特産品の取組などに関する内容の漁業士視察研修事業を実施しました。

[水産業振興課及び仙台・石巻・気仙沼地方振興事務所]

ロ 水産業改良普及活動を通じて、青年・女性漁業者等を対象に漁業技術・経営管理の向上のための学習会・先進地視察研修会を8回実施しました。

また、漁協青年グループ及び女性グループの自主的活動を促進するため、日ごろの研究活動及び地域活動を発表する青年・女性漁業者交流大会を開催しました。

さらに、中核的漁業者協業体として認定された2グループに対して、種苗生産技術、経営管理、補助事業実施に係る事務手続等について指導・支援を行いました。

[水産業振興課及び仙台・石巻・気仙沼地方振興事務所]

ハ 県単位で組織する沿岸漁業担い手団体である宮城県漁協青年団体連絡協議会が実施した「水産青年フォーラム」及び宮城県漁協女性部連絡協議会が実施した「みやぎの海の子作文コンクール」等の担い手育成事業に対して支援を行いました。

[水産業振興課及び仙台・石巻・気仙沼地方振興事務所]

#### (2) 水産業の次代を担う人材等への教育的取組の推進

水産業への理解を深めるため、小学生を対象とした「海の先生出前講座」を漁業士会南部支部が開催するとともに、中学生から大学生までを対象とした就業体験学習会及び漁業啓発学習会を実施しました。

中学生については、気仙沼地区（42人参加）と石巻地区（18人参加）の2地区で、それぞれ初歩的な漁業体験学習会を2日間実施しました。

高校生、大学生については、水産高等学校生徒（5名参加）を対象に実践的な就業体験学習を実施しました。

[水産業振興課、仙台・石巻・気仙沼地方振興事務所及び水産研究開発センター]

#### (3) 遠洋・沖合漁業従事者の育成

漁業就業者不足の深刻な状況に対処するため、漁業就業者の確保のための各種イベントにおいて宮城県の出展ブースを設け就業希望者への支援を行いました。

[水産業振興課]

※平成19年度実績

a 農林漁業ことはじめトークフェア

平成19年7月14日(土) 仙台市青年文化ホール

b 漁業就業支援フェア2007

平成19年7月21日(土) 仙台青葉カルチャーセンター

#### (4) 人材育成のための他産業との交流促進

本県、農林水産業の各担い手団体が一堂に会し、山・里・海を取り巻く環境をテーマとして、各産業の現状を視察しながら様々な問題や課題について検討するとともに、環境に対する意識を深め生産活動へ反映させていくことを目的とした一次産業交流会の開催を支援しました。

[水産業振興課]

#### (5) 起業及び漁村文化の伝承における女性及び高齢者の役割充実

農山漁村の女性団体が主催する「農山漁村パートナーシップ推進宮城県大会」を後援するとともに、漁村女性の起業化と経営の安定化を目的として、「魚食と漁協女性部の役割」、「水産物の価格向上、付加価値向上」等について、宮城県漁協女性部連絡協議会の会員を対象に経営等改善講習会を開催する等、女性団体の活動を支援しました。

[水産業振興課]

#### 【主な事業】

課名	事業費(千円) [決算額]	事業名
水産業振興課	6,955 [6,897]	沿岸漁業担い手活動支援事業(再掲) 漁業就業者確保育成事業 水産業改良普及事業

### 3 水産業に関する団体の育成強化

水産業の振興、漁村地域の活性化等の中核となる水産業協同組合組織の強化を促進し、かつ、健全な育成を図るため、系統団体と連携し一県一漁協体制の構築を推進するとともに、指導及び常例検査等を通じて適切な業務執行体制の確保及び経営改善に努めました。

また、各水産業協同組合及び水産加工業協同組合の任意組織である青年部・女性部・研究会等の育成強化を図るため、これら組織が企画する各種研修会への講師派遣及び組織の運営協力等を行いました。

## 【平成19年度の主な実績・成果】

### (1) 漁協の指導・販売事業の強化及び広域合併の推進

イ 水産業協同組合の業務及び会計の状況について、合法性、合目的性及び合理性等の観点から検査を実施し、組合の健全な運営の促進及び執行体制の強化を図りました。

[農林水産経営支援課]

※平成19年度実績 20組合

ロ 安定的な経営・事業運営基盤の確立のため、一県一漁協体制構築の取組に対する指導・支援を行いました。

[農林水産経営支援課]

### (2) 漁協等の研究会・青年部・女性部等担い手組織の育成強化

イ 市町単位を活動の範囲とした漁協青年グループ1団体が実施したアワビ養殖試験を支援しました。

[水産業振興課及び仙台地方振興事務所]

ロ 水産業改良普及活動を通じて、各水産業協同組合の任意組織である青年部等の育成強化を図るため、これら組織の運営を指導するとともに、各種研修会への講師派遣や組織の運営協力等を行いました。

[水産業振興課及び仙台・石巻・気仙沼地方振興事務所]

ハ 気仙沼、石巻、女川、塩釜の各地区の水産加工研究会及び当該4団体が構成する宮城県水産加工研究団体連合会の事業について支援しました。

[水産業振興課及び仙台・石巻・気仙沼地方振興事務所]

## 【主な事業】

課 名	事業費(千円) [決算額]	事 業 名
農林水産経営支援課	102,856 [102,532]	水産業協同組合指導事業 漁協組織強化事業 水産業協同組合検査事業 広域合併漁協組織強化対策事業
水産業振興課	4,074 [3,597]	沿岸漁業担い手グループ活動推進事業 沿岸漁業担い手活動支援事業(再掲) みやぎの誇れる水産加工品PR事業(再掲)

#### 4 労働環境の整備

後継者、女性及び高齢者の労働条件の緩和及び安全性の向上に対応するため、省力化・近代化施設及び効率的で安全な漁港づくりを推進し、労働環境の整備に努めました。

##### 【平成19年度の主な実績・成果】

##### (1) 省力化・近代化施設の整備及び効率的で安全な漁港づくりの推進

イ 安心・安全なかき生産を行うために宮城県漁業協同組合（歌津支所、女川町支所）が実施した共同かき処理場浄化処理施設整備に支援しました。

[水産業基盤整備課及び気仙沼・石巻地方振興事務所]

ロ 生産の効率化を図るために宮城県漁業協同組合（塩釜市浦戸支所）が実施した共同かき処理場整備に支援しました。

[水産業基盤整備課及び仙台地方振興事務所]

ハ 漁港整備事業により省力化・近代化施設及び効率的で安全な漁港づくりの推進に努めました。

[水産業基盤整備課及び仙台・石巻・気仙沼地方振興事務所]

※平成19年度の漁港整備実績

事業名	概要
特定漁港整備事業	水産物の生産及び流通の拠点整備を目的とし、気仙沼漁港外2港で外郭・係留施設等の整備を実施しました。
広域漁港整備事業	水産物の生産及び流通の拠点整備を目的とし、松岩漁港外3漁港で外郭・係留施設等の整備を実施しました。
地域水産物供給基盤整備事業	地域における水産資源の維持及び増大並びに水産物の生産及び流通機能の強化を図るため、狐崎漁港外11漁港で外郭・係留施設整備を実施しました。
漁港改良事業費	補助対象とならない漁港施設の改良を行うもので、8漁港で実施しました。

事業名	概要
漁港再生交付金	漁村の再生を支援するため、地域の既存ストックの有効活用等を通じた、生産基盤と生活環境基盤の効率的整備を行うもので、宿舞根漁港ほか2漁港で事業を実施しました。

【主な事業】

課名	事業費(千円) [決算額]	事業名
水産業基盤整備課	3,288,875 [2,756,403]	養殖水産物ブランド化推進・強化事業(再掲) 特定漁港漁場整備事業 広域漁港整備事業 地域水産物供給基盤整備事業 漁港改良事業費 漁村再生交付金

## ○漁船漁業構造改革の推進について

(関連事業：宮城県漁船漁業構造改革促進支援事業)

燃油高騰、魚価安等により厳しい経営状況にある漁船漁業から脱却するため、収益性向上・財務状況の改善等を目的とし、操業コストの削減、省エネ省力化、水揚物の高付加価値化等、漁獲操業方法から販売方法に至るまで総合的な改革（いわゆる構造改革）を産地市場や流通加工業関係者との関連のもと実践する先駆的なグループ等に対し支援し、儲かる漁船漁業への転換はもとより漁業地域の活性化を促進します。

### 1 「漁船漁業の構造改革」とは何か

漁船漁業は、水産物の輸入増加等に伴う魚価の続落、近年の燃油高騰等に加えて、漁船の老朽化、過剰債務、代船建造の遅れ等により生産体制が脆弱化し、非常に厳しい経営状況にあります。

このことから、従来の漁獲量重視の経営から収益性重視の経営への転換を促すため、漁業者及び地域（魚市場、流通加工関係者等）が一体となって、漁獲から販売にいたる生産体制を総合的に改革することが急務であります。

これを、「漁船漁業の構造改革」といいます。

### 2 取組状況

平成19年度から国の補助事業により「漁船漁業構造改革総合対策事業（もうかる漁業創設支援事業）」が実施され、県内では気仙沼、石巻地域にプロジェクトが設置されています。

各地域において漁船漁業の構造改革について検討が行われた結果、石巻地域の大中型まき網漁業による構造改革計画が、中央協議会において計画が妥当であると判断され、水産庁から認可されています。

また、気仙沼地域や石巻地域の他漁業種類についても構造改革計画の策定に向けた取組が行われています。

#### 【取組概要】

地域グループ	概要
気仙沼 ※気仙沼漁協	1 母船式遠洋まぐろはえ縄漁業 ・母船式操業（379ト型母船、19ト型3隻による操業。母船での冷凍・保管、市場ニーズに応じた加工） 2 次世代型近海まぐろはえ縄漁業 ・操業合理化（最新機器の導入、省エネ船型への改良） ・漁獲物の付加価値向上（スラリーアイスを用いた高鮮度化）
石巻 ※石巻市水産振興協議会	1 大中型まき網漁業（H20.2.15水産庁認定） <生産に関する事項> ・単船化による操業の合理化（4隻、乗組員52人→1隻、乗組員25人） ・衛星情報の活用による操業システムの開発 <流通販売に関する事項> ・新製品の開発によるカツオ、サバ等の付加価値付けで地元の産業強化 ・地域加工業者と連携した取組による製品の付加価値向上 ・フィッシュポンプによる鮮サバの水揚げ等、市場設備の改善 2 沖合底びき網漁業 ・操業合理化（最新機器の導入、省エネ船型への改良） ・漁獲物の付加価値向上（シャーベット海水氷を用いた高鮮度化） ・販売対策を通じた漁獲物のブランド化（金華ブランド化）

注）※はプロジェクト事務局

（水産業振興課）



## ○新規就業者の確保・育成に向けて

(関連事業：沿岸漁業担い手活動支援事業、漁業経営構造改善事業)

本県の沿岸漁業における就業者の状況はこの15年で約半数に減少しています（漁業センサスによる）。就業者の年齢構成を見ても高齢者の割合が高くなっていることから、将来的にも漁業生産を維持するためには漁業就業者を確保・育成することが必要となっています。

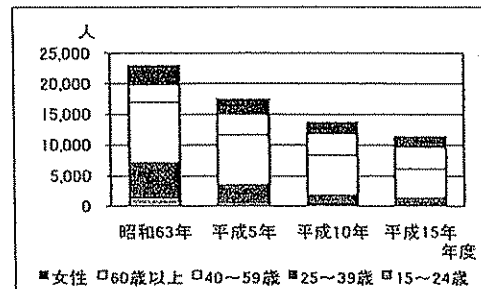


図 宮城県の漁業就業者数の推移

### 1 沿岸漁業の新規就業者参入状況

本県における新規就業者の参入状況は平成10年の72人を最高に、毎年約20人から40人の間で推移しています。参入形態別に見るとUターンが最も多く、次いで学校卒業後に家業を継ぐ学卒参入となっています。最近の新規就業者の参入形態を見ると比較的経営が安定し、収入の多いカキ、ノリ養殖において後継者の参入が目立っており、これら養殖が盛んな県中部地区で若い漁業者の割合が高くなっています。

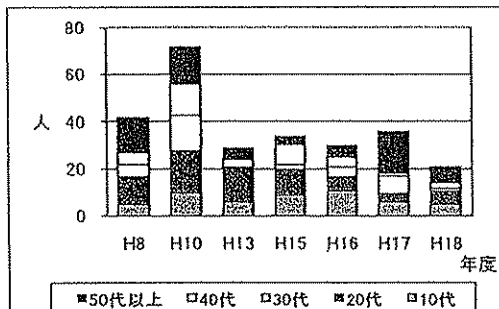


図 宮城県の新規就業者数の推移（年齢別）

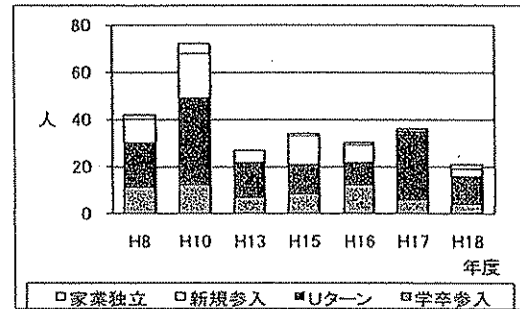


図 宮城県の新規就業者数の推移（参入別）

### 2 就業者の確保と育成対策

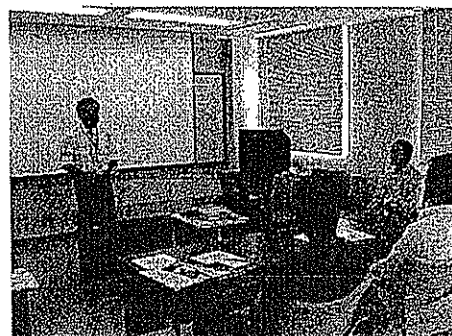
県では、新たな漁業担い手の確保や若手漁業者の経営安定化等のための支援を行っています。

未就業者に宮城県の水産業の魅力を知ってもらうため、マリンチャレンジスクール（中学生）やマリンカレッジ（高・大学生）を行っています。

また、沿岸漁業に就業した担い手が、安定的に漁業経営が続けられるよう、経営知識を学ぶための研修会や技術指導等を実施しています。



マリンチャレンジスクール



青年漁業者を対象とした研修会

(水産業振興課・農林水産経営支援課)

## ○漁業士活動の支援

### — 地域のリーダーとしての漁業士活動を支援 —

(関連事業：沿岸漁業担い手活動支援事業)

#### 1 漁業士とは

漁村青壮年等の活動に励みと目標を与えるとともに、将来の地域漁業振興の中核的漁業者としての意欲を喚起し、その自主的活動の助長を図るため、優れた漁業青年を「宮城県青年漁業士」として、また、現に優れた漁業経営を行い、漁村地域の活性化及び青少年の育成に関する指導のほか、漁村生活の改善、魚食・伝統文化の継承等教育的役割を果たしている者を「宮城県指導漁業士」として認定しています。

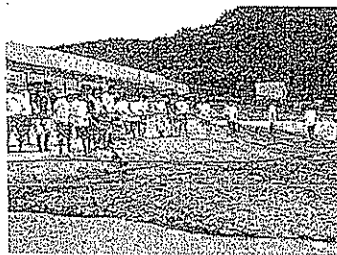
現在(平成20年3月31日現在)は、青年50人、指導69人の計119人の方が活動しており、うち7名が女性漁業士となっています。

県では、漁業士の活動母体となる漁業士会に対して、各種研修会の開催、参加等の支援を行っています。

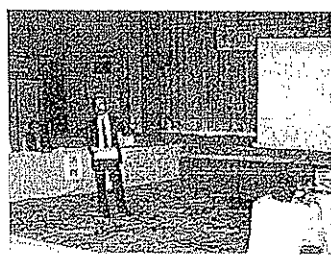
#### 2 漁業士の活動

- ① 若手漁業者の知識・技術の向上を図るため、研修会等において助言者として活動

また、小学生から大学生を対象とした体験学習事業において、漁業に対する理解深めてもらうため、講師として活動



小中学生等を対象とした体験学習事業の実施・支援



研修会や交流会等への参加

- ② 幅広い知識を修得し、地域漁業の振興を図るため、各種研修による自己研さんの実施

- ③ 他産業や他県漁業士との交流会

農業士会や林業研究会とともに、一次産業交流会を開催・参加し、交流を深める。



他産業との交流事業の実施

(水産業振興課)

## ○人工地盤の整備について

(関連事業：特定漁港整備事業)

気仙沼魚市場の南側施設は、築後50年を経過し老朽化が進んでいたことから、市場機能の向上を図るべく HACCP 方式対応の改修計画が進んでいました。その一方では、市場関係者車両の駐車場用地が著しく不足しており、臨港線跡地や民間駐車場を利用しても足りず、路上駐車等が多発しておりました。今回、市場を改修するにあたり、併せて不足していた駐車場用地を確保すべく、計画の調整を行いました。

### 1 整備状況

気仙沼漁港は、平成14年度を初年度とする「漁港漁場整備計画」により特定漁港整備事業として現在整備を進めております。

「人工地盤」は、当該整備計画と市単独事業である魚市場改修計画と併せて、魚市場屋根部分を駐車場として整備することにより、漁港内の駐車場不足問題を解消することを目的として整備されました。

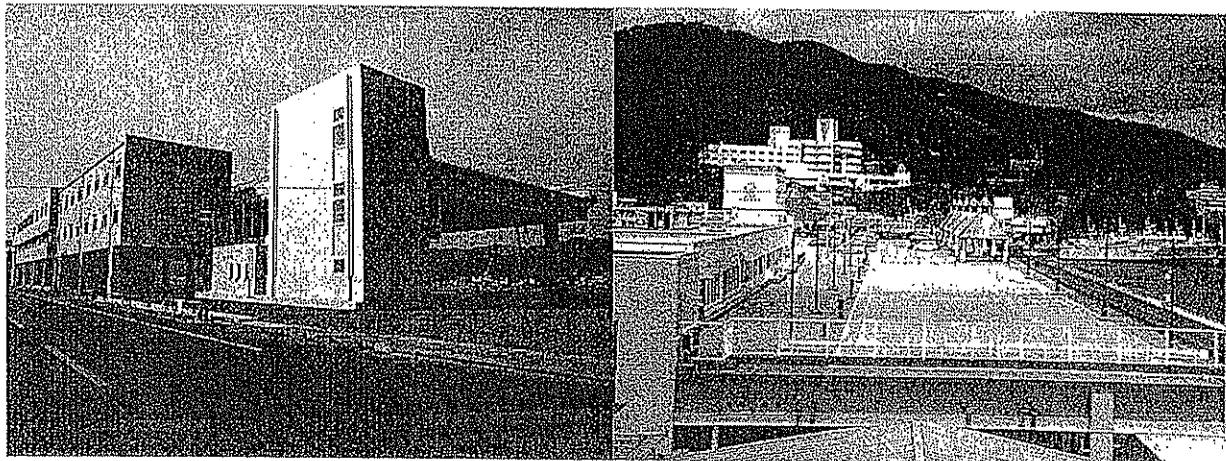
費用負担及び施工区分については、県(漁港管理者)と市(魚市場管理者)の間で平成17年8月に基本協定を締結し、平成17年9月に工事着手しました。

1期工事は平成19年度に完成しており、現在、供用開始されています。

### 2 人工地盤の概要

- (1) 対象事業区間：L=224.5m(魚市場改修計画A棟，B棟区間)
- (2) 人工地盤駐車台数：192台(市場関係者)※駐車場所用面積A=6,000㎡
- (3) 全体事業費：1,000,000千円(県負担87.8%，市負担12.2%)
- (4) 施行方法：合併対象事業費を気仙沼市単独事業として漁港事業の優先支出合併
- (5) 合併施行に伴う基本協定：平成17年8月に締結
- (6) 整備年次：平成17年度～平成20年度
  - (1期工事)平成17・18年度：人工地盤L=125.5m
  - (2期工事)平成19・20年度：人工地盤L=99.0m

※1期工事完成(人工地盤については指定管理者の気仙沼市に委託)



魚市場及び関連施設

人工地盤(駐車場)

(水産業基盤整備課)